

市内には、傾斜地に建つ住宅が多く、災害が起きると、救助が困難になる恐れがあります。また、一人暮らしの高齢者も多くなってきています。

これら地域の特性や高齢化を踏まえ、災害から皆さんの生命と財産を守るため、防災計画を見直しました。

## 室蘭市地域防災計画

# もしもの 災害に備えて

平成19年10月4日の大雨。一部地域では、10分間で13ミリもの雨量を記録。道路冠水やJR室蘭本線が不通となり、市内の交通網も一時的にまひした。



防災には地域住民の力が重要です。

# あなたが災害に遭ったら、誰が助けてくれると思いますか？

**生存者の約8割は家族や地域住民が救出**

平成7年の阪神・淡路大震災では、消防や警察への要請がとて多く、また、出動しても道路の寸断などによりなかなか現場までたどり着けませんでした。倒壊した建物の下などから救出された生存者の約8割は、家族や地域住民などにより助けられています。

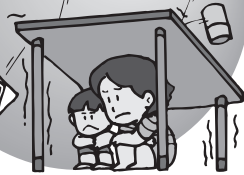
災害が起きた場合、消防や警察をはじめとする防災関係機関は、総力をあげて救援活動を行います。しかし、火災や道路の寸断、建物の倒壊、停電、断水など被害が多発してしまうと、消防や警察などの救援活動がすぐには受けられない可能性があります。

**近隣住民と顔見知りになることも防災対策**

最近では、近所付き合いどころか、隣

## 自助

自分の身は自ら守る



## 共助

地域住民が助け合う



## 公助

市、消防、警察などの公的な防災関係機関が防災対策を行う

に住む人の顔さえ知らないという人もいるようです。それでは、たとえあなたが、建物の倒壊で生き埋めになっても、周囲に気が付いてもらいうまに時間がかかってしまうかもしれません。日ごろから、近所の人と顔見知りになっておくことも、防災対策の一つです。

**被害を減らす  
自助・共助・公助**

災害の被害を減らすためには、自分の身は自ら守る「自助」が第一。自分が助からなければ、ほかの人を助けることもできません。次に、地域住民が協力して助け合う「共助」が重要になります。そして、市、消防、警察などの防災関係機関が「公助」として防災対策を行います。このように、災害が起きた場合には、それぞれが連携し、行動することが大切です。

## 室蘭市地域防災計画とは

地震や風水害などのさまざまな災害に対応するため、国や道の機関と警察などの防災関係機関で構成する室蘭市防災会議で作成したものです。

### 新たに見直した主な項目

#### ハザードマップによる

#### 災害危険予測箇所の周知

ハザードマップは、災害時の危険区域や避難場所、予防対策などの情報をまとめ、平成19年9月に完成し、全戸配布。危険予測箇所を基に防災対策を検討しました。



#### 土砂災害対策の推進

土砂崩れなどの土砂災害に備え警戒避難体制の整備に努めます。

#### 水防対策の推進

津波や洪水による浸水などの水害に備え、水防体制の整備に努めます。

#### 地震（津波）災害対策の推進

地震に備えた予防・応急対策など、地震に強いまちづくりを推進します。

#### 災害時要援護者対策の推進

高齢者や障がいのある人など災害発生時に助けを必要とする人（災害時要援護者）の安全確保対策の整備に努めます。



# 室蘭市地域防災計画の概要

## 災害予防対策

自助・共助による防災活動とともに、災害の未然防止と被害の軽減を図るため、防災関係機関が相互に協力し、風水害や地震に強いまちづくりを進めます。

## 防災教育・訓練

市民や事業所の皆さんは、災害時に自らの安全を確保することと、地域社会の一員として自主的に責任ある行動をとることが必要です。

市では、ハザードマップの配布、町内会や自主防災組織などへの防災学習、防災訓練の実施などを通じて、災害の基礎的な知識の普及に努めています。災害時に的確な対応が取れるよう、日ごろから、市や地域が実施する防災訓練への参加や、避難に必要な情報を自ら積極的に入手するなど、防災能力の向上に努めましょう。



災害に備え地域で行う防災学習会(写真上)や避難訓練(写真下)

## 自主防災組織

市では、町内会などを単位とする自主防災組織の結成、活性化を進めています。大規模災害が発生したときには、地域住民が一体となって、救助や初期消火活動などの助け合いを行うことが、被害を最小限に抑えるために、きわめて有効です。

また、地域住民が普段から防災意識を共有し、いざという時に災害対策に参加できる環境づくりが地域の防災力向上に役立ちます。

## 災害時要援護者の支援

高齢者や、障がいのある人は、災害発生時に自分自身で適切に行動することが

困難です。そのような人たちの安全確保や、十分な配慮と支援をするため、市では、避難支援プランを策定する予定です。プランの作成には、町内会や自主防災組織、民生委員などの協力が必要であり、災害時における犠牲者ゼロを目指し、支援体制の整備を進めます。

## 災害が起きたら

自分の身は、自分で守ることが原則です。ただし、高齢者や子ども、体の不自由な人は自分で守ることが難しいので周囲の人が安全の確保に協力してください。避難が必要な状況になった場合は、直ちに安全な場所に移動しましょう。

身の安全が確保できた後は、家族や隣近所の方の安否を確認し、救助活動などの初期対応に協力しましょう。災害が発生した場合、あるいは災害の発生が予想される場合、広報車やラジオを利用するなど状況に応じて、市民の皆さんに情報を流します。



避難場所を示す看板

「避難準備情報」が発令されたらいつでも避難できるよう準備を整えましょう。災害時要援護者は、周りの協力者が支援し、避難場所等の安全な場所へ移動しましょう。

「避難勧告」が発令されたら原則として避難所に避難しましょう。

「避難指示」が発令されたらその場に留まることは危険です。速やかに避難しましょう。

災害発生時には情報が混乱することがあります。確実な情報を入手するため、携帯ラジオなどを備え、非常用持出袋などを準備しておくといいでしょう。

地域のラジオ放送 FMびゅー (FM84.2メガヘルツ)

## 緊急防災情報

市内で地震や土砂崩れ、洪水などの災害が予想される場合や発生したときは、皆さんに、避難準備や避難勧告などの情報を、FMラジオ放送を通じて、いち早くお知らせします。市内で火災や大きな事故が発生した場合にも、随時情報提供を行っています。



## 災害応急対策

市では、災害発生時や警報が発表された場合など、災害の種類や規模に応じて、非常配備体制をとり、情報収集や応急対策などを行います。

また、災害規模が大きいときには警戒本部や災害対策本部を設置し、災害対応にあたります。



災害対策本部設置の訓練

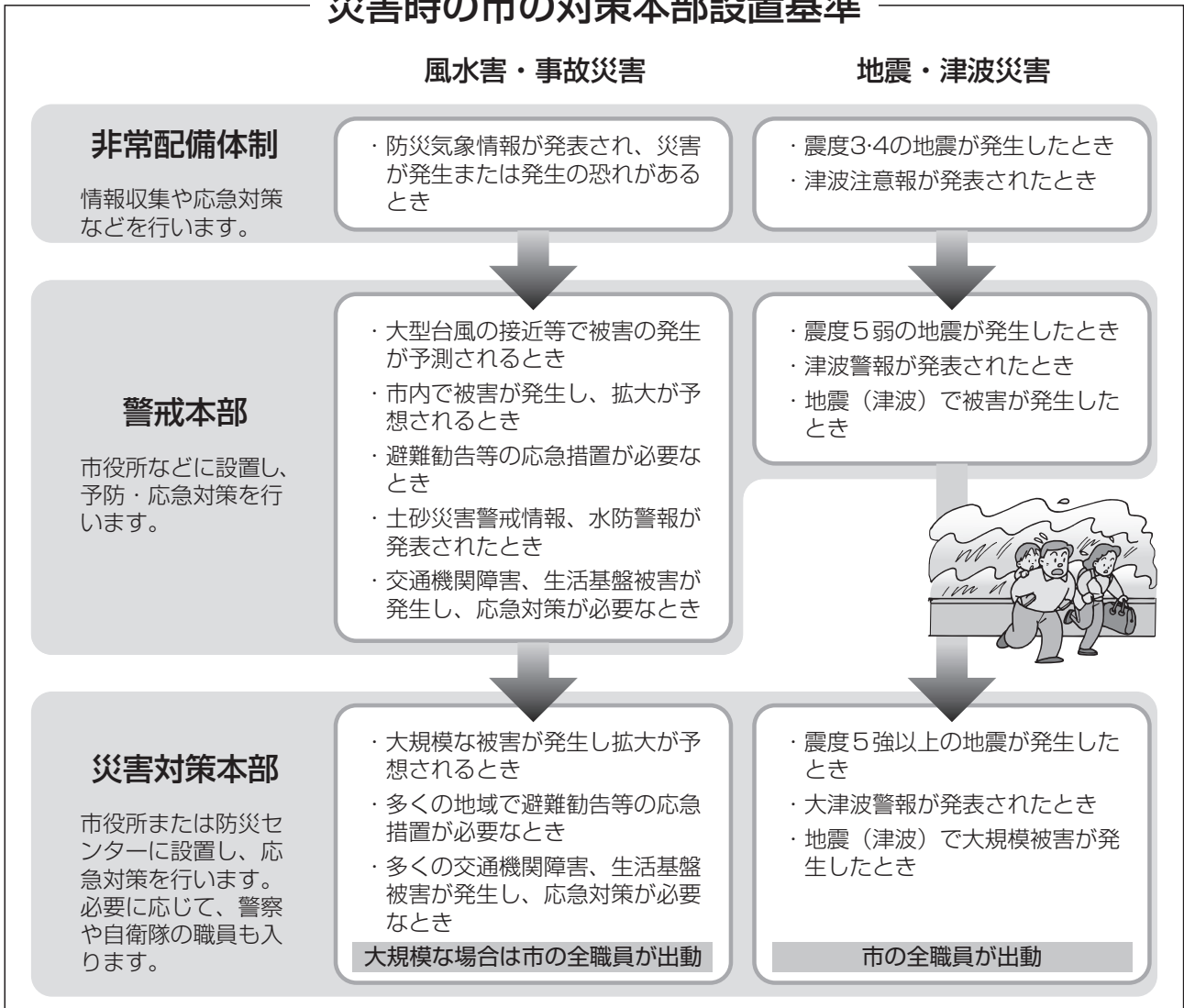
## 災害復旧対策

住民の生活手段の確保を最優先し、社会秩序の維持、社会活動の早期回復を図るため、適切な対策を講ずることとしています。

## その他の災害への対応

海難事故、流出油等の事故、鉄道・道路などでの大規模な車両事故、危険物や林野火災などにも対応するため、それぞれの災害に対する防災計画を作成しています。

### 災害時の市の対策本部設置基準



室蘭市地域防災計画は、総則・防災組織、風水害防災計画、地震防災計画、事故災害防災計画の4編で構成されており、ホームページでご覧になれます。

《詳細》総務課防災安全 ☎2244 <http://www.city.muroran.lg.jp/main/org3250/bosaikeikaku.html>